

2018-2019 ガバナー月信

GOVERNOR'S 5 MONTHLY LETTER



BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

国際ロータリー第2510地区 2018～2019年度 ガバナー 小 山 司

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com <http://rid2510.org>

2018-2019年度国際ロータリーのテーマ
「インスピレーションになろう」



**国際ロータリー第2510地区
 2018-2019年度地区目標**

—— 持続可能な絶え間なき変革のスタート ——

1. 組織を活性化しよう

- (1) 会員の維持、増加の推進
- (2) 女性会員の増強
- (3) クラブ役員、地区委員への若手登用の推進

2. ロータリーの認識・理解を深めよう

- (1) 会員研修の充実・強化
- (2) クラブ相互間、グループ相互間等のコミュニケーションの活発化
- (3) ガバナー月信の内容充実、電子化の推進

3. 地域社会との関わり合いを深めよう

- (1) 人道的奉仕活動の推進、ロータリー財団補助金の活用
- (2) 青少年活動の支援・強化、地域社会との連携
- (3) 広聴活動の推進

CONTENTS

●ガバナーメッセージ.....	1	●“変革”をテーマにインターシティーミーティング開催 (RI第2510地区第4・第5グループ合同)	16
●米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション2019～2020年度米山記念奨学生歓迎会	2	●『原点を振り返り、広げようロータリーの輪を』第10・11グループインターシティーミーティングの報告	17
●岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの認可を戴いて.....	3	●Challenge & Opportunities 2018-19.....	18
●2019～2020年度地区研修・協議会 報告.....	4	●『7月28日、PMF＊1hitaruコンサートへロータリーが300人の中高生を招待する』	20
●地区研修・協議会 第1分科会 会長部門.....	5	●新会員のご紹介/訃報/深川ロータリークラブ事務所変更のお知らせ...	21
●地区研修・協議会 第2分科会 幹事部門.....	6	●米山奨学生のご紹介/米山記念奨学会寄付・ロータリー財団寄付.....	22
●地区研修・協議会 第3分科会 クラブ奉仕部門.....	7	●ハイライトよねやま.....	23
●地区研修・協議会 第4分科会 職業奉仕部門.....	8	●ロータリーコーディネーターNEWS.....	24
●地区研修・協議会 第5分科会 社会奉仕部門.....	9	●変化するロータリーとクラブ.....	25
●地区研修・協議会 第6分科会 国際奉仕部門.....	11	●地区カレンダー (5月・6月).....	26
●地区研修・協議会 第7分科会 青少年奉仕部門.....	12	●出席率・会員数.....	27
●第8グループインターシティーミーティングを終えて.....	15	●文庫通信.....	28



今後のロータリーに期待すること その5 — 青少年奉仕月間にあたって —

国際ロータリー第2510地区

2018-2019年度ガバナー **小 山 司**
(札幌RC)

4月は岩見沢ネクストロータリー衛星クラブ認可祝賀会、深川RC創立60周年記念式典、洞爺湖RC創立50周年記念式典と、祝賀行事が続きました。記念すべき大きな歴史の節目にあたり、各クラブそれぞれに心を新たに将来のさらなる発展を決意されました。第2510地区の会員の皆様と共に心からエールを送らせていただきます。4月8日、9日の両日には千歳市で次年度クラブ役員を対象とした地区研修・協議会が開催されました。国際協議会で研修を受けられた福田ガバナーエレクトが、マローニーRI会長エレクトの方針を説明し、向こう一カ年の運営方針を発表し、次年度の準備体制がスタートしました。本年度は残すところ2カ月となりました。各クラブにおかれましては、クラブ活動計画の棚卸しを開始され、計画の実現に向けさらにご尽力いただくよう心からお願い申し上げます。

さて5月は青少年奉仕月間です。青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じ、青少年や若者によって好ましい変化がもたらされること、などが期待されます(標準ロータリークラブ定款第6条)。周知の通り、地区の青少年奉仕プログラムとしては、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、ロータリー青少年交換、RYLAがあります。青少年奉仕の歴史は殆ど初期ロータリーにまで遡ることができますが、現在のようにならぬ五大奉仕の第五部門に位置付けられたのは2010年になってからです。当初は新世代奉仕と云われましたが、2013年からは青少年奉仕と、現在の呼称に変わっています。このようにまだ歴史が浅く、ロータリーの弱点であるとの指摘があるなど、いまだ発展途上にあると言えます。

第2510地区でも状況は同じで、なかでもローターアクトクラブとRYLAに未解決の課題を抱えています。ローターアクトクラブはインターアクトクラブからの継続性を意図して1968年に発足し、現在では、184の地域で10,904クラブ、25万人の会員を擁しています。奉仕活動を通して得られた親睦と友情、ロータリアンとの世代間交流による相互理解、ローターアクトならではの地域に密着した継続的、日常的

な奉仕活動など、その活動は高く評価されています。また、「ロータリアンに一番近いロータリーファミリーはローターアクト」と言われるなど、将来の有力なロータリアン候補としての期待も高まっています。

バリー・ラシンRI会長もサンディエゴでの国際協議会の会長講演で、ローターアクトの会員数を倍増したいとの抱負を述べられました。しかし、第2510地区は現在、ローターアクトクラブの減少と会員数の不足という深刻な問題に直面しています。今年度、ローターアクトクラブを有する5つの市(赤平、札幌、千歳、函館、室蘭)を中心にローターアクトの拡大・増強について打開策の検討が行われています。その成果に期待したいと思います。

RYLA(ロータリー青少年指導者養成プログラム)は地域の若者(14歳から30歳)とロータリアンが参加するプログラムで、1959年にオーストラリアで始まり、1971年にRIの正式プログラムに採択されています。RYLAの目的は、アクトとは別に、地域社会の若い人々の指導力及び善良な市民としての資質や個人の能力を伸ばすことにロータリアンが直接関与できる特別な機会を設けることにあります。活動カリキュラムとしては講演・討論・話し合いなどの座学に加え、実地訓練・野外活動のほか、適宜、お茶の時間・散歩・ゲーム等を取り入れることが望ましいとされています。

当地区のRYLA活動は諸先輩の情熱とご尽力により実績を重ねて来ましたが、最近の傾向として自主的な参加者が少なく、主催者は定員を満すのに苦労をするなどの問題が指摘されることが良くあり、動員された消極的参加者が多いと会の運営に支障が出ることもあり得ます。また、地区や主催者の負担があまりにも大きすぎるとの理由から年度によっては開催されないこともありました。地区が直面する重要な問題だと思います。単に「RIの正式プログラムだから行うのが当然」という立場を離れて、「ロータリーが行う青少年指導者養成プログラムの意義と内容・形式のベストプラクティスは何か」という観点からRYLAを根本から見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

米山記念奨学生・カウンセラーオリエンテーション 2019－2020年度米山記念奨学生歓迎会

2019年4月6日、京王プラザホテル札幌にてカウンセラー研修会、奨学生・カウンセラーオリエンテーション、米山記念奨学生の歓迎会が開催されました。

【カウンセラー研修会】14:00～

研修会には各世話クラブから18名のカウンセラーに参加いただきました。福田武男ガバナーエレクトの参加のもと、青木貞康米山記念奨学・学友次期委員長を講師として世話クラブとカウンセラーの役割、奨学生との関わり方等を解説しました。

【奨学生・カウンセラーオリエンテーション】15:15～

今年度は新規奨学生15名、継続奨学生6名で計21名となります。当日が新規奨学生とカウンセラーとは初対面であり、当初、奨学生は緊張気味でしたが、カウンセラーと会話を交わすことで緊張もほぐれていきました。小山司ガバナー、福田ガバナーエレクト、福井敬悟ガバナーノミニー参加のもと、講師として佐藤竜也米山記念奨学・学友副委員長より、ロータリー米山記念奨学事業、世話クラブ・カウンセラー制度、奨学生の心得・役割、米山奨学生学友会等について解説しました。

その後、新規奨学生から確約書にサインを頂き、カウンセラーから奨学生へバッジが授与されました。

その後、継続奨学生の邵冠銘(室蘭北)、孫 千恵(札幌)、ハウゲン マックス(江別)、金 仁瑛(小樽南)、南宮眞(函館亀田)、ファム・テュ・フォン(恵庭)より1年間の体験談、世話クラブ・カウンセラーとの関わり方について報告頂きました。

【米山記念奨学生歓迎会】17:00～

大石清司米山記念奨学・学友委員長の開会の挨拶後、祝宴となりました。祝宴では奨学生、カウンセラーの自己紹介、汪志平米山学友会前会長と米山学友の皆様から歓迎のお言葉を頂き、終始、笑みの絶えない和やかな雰囲気祝宴は進行しました。最後に青木米山記念奨学・学友次期委員長よりご挨拶を頂き閉会となりました。





岩見沢ネクストロータリー 衛星クラブの認可を戴いて

岩見沢RC会長 白 杵 努

RIバリー・ラシン会長は2018年国際協議会での講演において、ロータリー活動を通じ変化をもたらすための意識や意欲を持たないクラブがあまりに多く、ロータリーが世界でどんな活動をしているのかを知らず、ロータリーと財団のプログラムを知らないクラブ、参加方法が解らないクラブもあると苦言を呈する一方、全世界539地区のガバナーに対し変化を生み出すことへの意欲を、クラブ会長と地区内ロータリアンの心に芽生えさせ、もっと何かをしよう、可能性を最大限に発揮しようというやる気を引き出し、それぞれのやり方で前進できるよう手助けすることが皆さんの仕事であると叱咤激励しています。

持続可能性をロータリーの合い言葉として、真に持続可能な奉仕とは、私たちが行うすべての活動を、より大きなシステム、より大きくグローバルな生態系の一部として見ることを意味し、それは強くこれからやって来る変化に対する回復力がある地域社会を築いて行くことで、それを実現するためにインスピレーションになって下さいと訴えました。

また、国際ロータリー第2510地区小山ガバナーのテーマは「持続可能な絶え間なき変革のスタート」であることから、今年度のキーワードは「持続可能」にあると思い、岩見沢ロータリークラブの会長方針を「持続可能な変革へ、進化するロータリー」と掲げさせて戴きました。

「運命を切り拓くには、常に進化し時には革命的に」とは、言わずもがなポール・ハリスの言葉です。大げさな考えかも知れませんが、日本は国レベルで人口減少を迎えている今、地方のロータリークラブは運命を切り拓く時期であり、革命的な進化をしなければ未来はないと思いました。

持続可能とするためには、会員が減少しないように増強に努め、高齢化しないように若返りをはかる必要があ

りますが、それは既にどのクラブも取り組まれていることで、当クラブにおいても従来から力を入れて参りました。

しかしその効果がなかなか数字に見えてこない以上、固定観念に囚われない新たな手法を生み出す必要がありました。そこで思いついたことが、退会防止と会員増強を目的とした新たな会員区分の設置です。

退会防止に特別功労会員という新たな会員区分を設置し、会員増強は衛星クラブの設立です。特に衛星クラブでは、年会費や例会の実施時間、頻度など入会の妨げとなっている要素を考慮し、スポンサークラブと異なるルールを設けたことで、若い人たちが入りやすく、かつ活動も継続できるようになり、スタート時には11名の入会となりました。

本来衛星クラブとは、新たなクラブを誕生させてロータリアンを増強する目的であります。当クラブでは独立が目的では無くスポンサークラブの増強を主とするものであり、その考え方が発想の転換にあたるものと思います。

最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。クラブが生き残れるよう、常に変化を意識してまいりたいと考えます。





2019-2020年度 地区研修・協議会 報告

国際ロータリー第2510地区

次期地区代表幹事 **武石 忠俊** (千歳RC)

2月の地区チーム研修セミナー、3月の会長エレクト研修セミナー(PETS)に続いて、今回の4月14日の地区研修・協議会が終了しました。佐藤秀雄PG(2003-04年度)から16年振りの開催です。

千歳には100人近くの分科会を7つも開催できるホテルはありませんので、文化センター(北ガスホール)とANAクラウンプラザ・ホテルを使用することとなりました。隣接しているとはいえ会場移動に10分近くかかり、出席された皆様にはご不便をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

この全体会議の会場は、10月4日・5日に開催される「RI2510地区大会」に使用する会場と同じであり、最大1,200名の収容人数でもあり、我が地区の地区大会には丁度良い規模であります。正に地区大会の予行演習のような雰囲気であり、関係者のみなさんにとってもたいへん良い経験になったものと思われまます。

4月13日(土)は、ANAクラウンプラザ・ホテル2階において事前打合せ会議が執り行われ、福田武男ガバナーエレクトから開催にあたっての挨拶、参加者の紹介があり、安孫子建雄地区研修リーダー(PG)から「2019-2020年度地区研修・協議会について」というテーマでお話を頂き、その後7つの分科会に分かれて2時間にわたって事前打合せ会議が行われました。

17:30から同ホテルにおいて、前田浩志次期地区幹事・喜多康裕次期地区幹事の司会進行により、懇親会が行われ、小山司ガバナーの開会のご挨拶、松坂敏之地区研修・協議会実行委員長より乾杯のご発声を頂き、明日が本番であることを忘れるほど大いに盛り上がった懇親会でありました。

最後に、福井敬悟ガバナーノミニーから閉会のご挨拶をいただき、全員で「手に手つないで」をもって散会となりました。

4月14日(日)は、いよいよ大ホールでの本番です。



10:00、福田ガバナーエレクトによる点鐘に始まり、桑島昌子会員(千歳セントラルRC)による国歌独唱、南雲勇次ソングリーダーによる「奉仕の理想」の全員での斉唱に続き、この「地区研修・協議会」のホストクラブである千歳セントラルRCの菅原百合子会長から歓迎の言葉があり、小山ガバナーからのご挨拶を頂いて、いよいよ地区研修・協議会が始まりました。

最初に、2019年7月から新たにロータリー財団地域コーディネーターとなられる羽部大仁PGより就任へ向けのご挨拶を頂きました。

続いて2019年6月末で3年間の任期を退任される酒井正人第一ゾーン・ロータリーコーディネーターより「ロータリーの成長を願って」というテーマでのご講演、次に安孫子地区研修リーダー(PG)より「地区とクラブの研修について」というテーマでのご講演、最後に嵯峨義輝第一ゾーン・ロータリー公共イメージコーディネーター補佐(PG)より「会員増強・新世代へのアプローチ、衛星クラブ(岩見沢ネクスト)」というテーマで夫々貴重な講演をいただきました。

続いて、福田ガバナーエレクトから「国際ロータリーの目指すところ」というテーマで基調講演があり、強行スケジュールでありましたが、何とか午前中の盛り沢山のプログラムが遅れながらも終わることができました。

午後は前日に打合せの通りに7つの分科会に分かれ研修が行われ、各クラブの会長はじめチームリーダーの方々にはたいへん意義のある会議であったと思われまます。是非この研修の結果をクラブ運営に役立てて頂きたいと思ひます。また今回の分科会の報告につきましては各分科会の担当者によりガバナー月信で詳しく発表させていただきます。

最後に、今回の地区研修・協議会のご出席されたみなさまに感謝します。時間にわたりたいへんお疲れさまでした。



地区研修・協議会 第1分科会

会長部門

70クラブの会長エレクト、小山司ガバナー、福田武男ガバナーエレクト、安孫子建雄次期地区研修リーダー(PG)、福井敬悟ガバナーノミニ、大日向豊吉ガバナーノミニ、デグジネット、加藤隆一次期第1グループ・ガバナー補佐、伊澤珠樹次期第3グループ・ガバナー補佐、武石忠俊次期地区代表幹事、井上英幸次期地区財務委員長、喜多康裕次期地区幹事、中村和雄次々年度地区財務委員長、武蔵輝彦次期地区広報・ICT委員長、川下和光次期地区ローターアクト委員長、里見英樹次期地区広報ICT委員、大石清司地区米山記念奨学・学友委員長・・・以上の80名を超える次年度のリーダーが集まり、福井ガバナーノミニの進行により開催された。

最初に、地区の現況について小山ガバナーから概略のご報告と次年度に向けての叱咤激励のご挨拶があり、続いて福田ガバナーエレクトから16枚のPPTを使って、各クラブ会長就任に向けての励ましのメッセージが贈られた。

次に福田ガバナーエレクトから次年度の組織図について詳しく説明がなされ、そして、井上次期地区財務委員長から5週間前にPETSで発表された地区予算案の説明が再度なされた後、次年度の地区の「人頭賦課金」と次年度の「地区予算案」が満場一致で承認された。

次に、次年度に向けて検討を重ねているホームページの見直しについて、その必要性の有無などについて武蔵次期地区広報・ICT委員長と里見委員から詳しく説明がなされた。

ローターアクトの活性化は福田ガバナーエレクトが早くから表明している次年度活動の一つの大きな柱である。次々年度、2021年3月に札幌市で開催が予定されている「全国ローターアクト研修会(全研)」に向けて、川下次期地区ローターアクト委員長から詳しく地区内ローターアクトの現況の説明がなされ、全クラブに対して「全研」に向けて、是非協力をして頂けるよう強く要請がなされた。

最後に、福田ガバナーエレクトが次年度の活動の大きな柱としている米山記念奨学金制度について、今回会長エレクトとして出席している大石米山記念奨学・学友委員長より、詳しく分かり易く活動報告を頂くとともに、また次年度へ向けて更なる米山への協力がいただけるようにとのお話があった。

最後に安孫子次期地区研修リーダー(PG)より各会長に励ましの言葉をいただき、福井ガバナーノミニの閉会のご挨拶で第一分科会の会長部門を有意義に終了した。



地区研修・協議会 第2分科会

幹事部門

全クラブの次期幹事出席の下、アドバイザーとして羽部PG、サブアドバイザーとして澁谷財団補助金委員長の出席を頂いて、久保田リーダーの司会進行により、議事が進められた。

冒頭、基調講演として羽部アドバイザーから「元気なクラブづくり」のためのクラブリーダーシッププランやステップについてお話を頂き、次に澁谷サブアドバイザーから「ロータリー財団プログラム」についてお話を頂いた。以下に講師等のコメントを略記する。

・羽部アドバイザー講話要旨：①組織(クラブ)での悩みはマンネリ化と高齢化で、前者は活動が停滞し活気を失い、後者はクラブの機能を失うことに繋がる。

②マンネリ化改善には、クラブの戦略計画を作成して中長期の目標を立て、高齢化改善には会員増強により若い会員を迎えて将来に備えることである。また、クラブの現状を分析して、クラブの長所と短所を考えることが肝要である。③元気なクラブとなるためのステップとしては、(1)会員の積極的な参加、有意義なプロジェクトの実施、新しいアイデアの取り入れ。(2)地域社会との繋がり深化。(3)中長期な計画を立てる。(4)年度目標を立てる。(5)意見交換のミーティングを開く。(6)コミュニケーション計画を立てる。(7)リーダーシップの継続性を保つ。(8)クラブに最適な細則をつくる。(9)会員同士の交流を深める。(10)関心をもてる活動に参加できるようにする。(11)リーダーとなる人を育てる。(12)クラブに必要な委員会を設置する。

④今年2月1日に「札幌ライラックロータリークラブ」が地区内70番目のクラブとしてRIから認証された。行動することがロータリーを活性化する鍵であることを実感している。

・久保田リーダーの発言：①本研修の大きな目的は、クラブ幹事の役割を理解して、クラブ運営の中心となって責務を果たすことにある。②幹事の任務としては、会員記録の保管、出席の記録、人頭分担金や地区賦課金の送金等、広範囲に跨っている。③この数年間のクラブでの最大の課題は、会員増強問題である。ピーク時4300名の会員は、この数年間2600名前後で推移しており、20名以下のクラブが20クラブでクラブ存続の危機にある。④最近のクラブ事業は、単年度活動から複数年度に跨る継続的な事業展開へ、クラブ相互の連携、共同実施、ロータリー単独実施から外部協力機関との連携実施へと進んでおり、広報活動の重視、クラブ運営の柔軟性発揮が顕著である。⑤今後、会員増強への取り組み強化、クラブ定款とクラブ細則の改版、クラブ戦略計画の取り纏め、クラブを超えて地区で活躍できる人材育成に心がけて頂きたい。⑥RIテーマ、RI目標、地区目標の勉強を踏まえ、意欲溢れるクラブ計画、クラブ方針を策定され

たい。⑦変革(革新性)、柔軟性、多様性に富んだ事業の推進を心がけて欲しい。

・小山サブリーダーの発言：①ロータリー活動の原点はクラブにあり、「クラブファースト」にある。

②事務局の有無によって幹事の苦勞に差がある。③事務手続きや業務に手落ちが無いように気配りが肝要。④業務全般について常に前向きに行動し、とくに会長との関係を密にされたい。⑤会長の望む理想のクラブ造りの具現化に努力する。⑥クラブ委員会の自主性を尊重し、指導力を発揮する。⑦クラブメンバーが仲良く楽しく「和」を保てるように務め、時には幹事自身の自我を抑えることも必要。⑧「位」は人をつくると言われる。幹事の任が終わった時に、今以上に大きく成長した立派なロータリアンになっていることをご祈念申し上げる。

・前田次期幹事の発言：①例会やクラブの周年事業や地区大会への参加率の向上の要は幹事である。当初の登録の取り纏め数よりも10%でも20%でも上がるよう行動されたい。それがクラブの活性化に繋がる。②会員拡大に関しては委員会を設置して取り組まれていると思うが、率先して行動し、成果を上げていかなくてはならないのは会長・幹事である。会長と相談の上、会員拡大の活動に務めて頂きたい。

・澁谷財団補助金委員長の説明：①財団は、元RI会長のアーチ・クランプが「世界でよいことをするための」基金の設置を提案して、全世界で多くの人々の人生を変える財団へと発展した。②年次基金寄付は、3年後に地区の財団補助金として利用できる。③地区補助金は地元や海外の地域社会ニーズに取り組むための、比較的規模の小さい短期的な活動を支援する。④グローバル補助金は、六つの重点分野に該当する大規模な国際的活動を支援する。⑤地区の補助金の配分基準は1クラブ1プログラム。3年前の年次寄付金の25%程度を上限。9人以下の小規模クラブで年次寄付金の1/4が10万円を下回る場合は10万円。最高額は40万円。



地区研修・協議会 第3分科会

クラブ奉仕部門

ロータリーの5大奉仕の一つ、クラブ奉仕委員会は、会員親睦、出席、広報、情報、会員増強など多数の委員会を取り纏める活動の根底です。更なる発展、継続を目指す上で、クラブの自主性、多様性、柔軟性は重要です。会員満足度調査等、クラブ員の現状認識を捉え、対処頂くよう説明致しました。武蔵地区広報・ICT委員長より、MY ROTARYの登録状況について、日本国内の平均以上にはなっているが、いまだ30%程度に留まっていること、ロータリークラブ・セントラルの活用、地区ホームページへの情報提供のお願い、更にMY ROTARYのアカウントの取得のお手伝いをさせて頂く旨が説明されました。堀元地区ロータリー情報委員長は、「各クラブの有意義な情報を地区全体で共有出来るように発信する」を活動方針に、SNSを使い、スピード感のある情報発信と考え、Facebookを通して地区内限定で情報発信をしています。現在100名の登録を頂いております。詳しくはガバナー月信3月号に記載されています。地区全体で会員増強・維持を目指すには、クラブの奉仕活動のニュース等を地区情報委員会に挙げて頂ければ、他のクラブの活動の参考になります。ロータリー・リーダーシップ研究会RLIについて、渡邊委員長が、RLIの目的等について説明されました。ロータリアンの自主性と、卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育て、ロータリーを活性化すること。また、第3分科会クラブ奉仕部門は、参加者に対し事前に委員会毎にテーマ与え、ディスカッションすることを伝え開催致しました。グループテーマは、クラブ管理運営委員会は、【会員の意欲が高まるような活性化について、どのような計画を考えていますか】会員増強委員会は【会員数目標を達成するために、クラブはどのような計画を考えていますか】広報・ITC委員会は、【公共イメージを高め、

資格を満たす会員を惹きつける為に、どのような広報活動を考えていますか】ロータリー情報委員会は【新会員がロータリーに関心を持つ様にする為に、どのような計画を考えていますか】を話し合いました。委員会毎に5つのグループを造り、更に13テーブルに分かれ1時間議論を行いました。各テーブルには、RLIのメンバー6名と地区奉仕委員会のメンバー7名の会員にご協力を頂き、ディスカッションのリーダーとして議論をして頂きました。議論は結論を求めるものではなく、参加して頂いた他クラブの会員との情報交換でもあります。それぞれのクラブには地域社会の特性があり、クラブとしての歴史も異なります。その中でクラブ奉仕活動を続けて行く中で、何が優れているのか、何が不足しているのか、気づいて頂ければ目的は達成です。ディスカッションの内容は簡単なメモとして提出頂いております。現在整理中ですが、その中で気づいたことがあります。例えば新人の入会式の折、ロータリーに係る資料やバッチ等をお渡ししていますが、内容に係る説明を事前に時間を取って行っているクラブは非常に少ないように見えました。炉辺会や、新人研修と言う内容で用意されてはいますが、当会に入れてあげるのではなく、入会して頂く訳ですから検討が必要ではないかと感じました。

地区研修・協議会 第4分科会

職業奉仕部門



活動方針・活動計画

坂井 治次期地区職業奉仕委員長
クラブ委員長がクラブ内でも討議していただけるような資料を提供したい。
各クラブの活動計画や活動実績を集積してクラブの活動情報源としたい。
各クラブの要請に応えた資料の提供を行いたい。
卓話等の要請に可能な限りお応えしたい。



「四つのテスト」

阿部 正信次期地区職業奉仕委員
四つのテストの成立と定着の解説をした。



「決議23-34」

荒木 俊和次期地区職業奉仕委員
決議23-34の持つ意味 ロータリーの奉仕理念を明確に定義したただ一つのもの。
「超私の奉仕」「最もよく奉仕するものが最も報われる」、「奉仕」の変遷とその時代背景の解説。



ロータリークラブ黎明期の職業奉仕から

第5グループ 田澤 泰明AG
ロータリークラブの基本的な考え方として各クラブ職業奉仕委員に“四つのテスト”と“決議23-34”を知っていただきたい。



クラブにおける職業奉仕委員会の役割について

坂井 治次期地区職業奉仕委員長
あなたの職業を通して他人を助ける事が職業奉仕の目的。
四つのテストに従って仕事を行っていくことが職業奉仕と言える。
職場訪問は職業奉仕か？



各クラブからの事例発表

清水 哲次期地区職業奉仕副委員長
静内RC 学校との連携 模擬面接の実施
函館亀田RC 学生の職場体験 受入れ先として協力
室蘭RC 会員及び会員以外企業の職場訪問
函館五稜郭RC 職場訪問(会員企業に限らない)



講評と総括

嵯峨 義輝パストガバナー
「最も奉仕するものが最も報われる」は徹底的な顧客満足である。
職業人として“良いもの”とはどういう事なのだろうか？ということ各クラブの職業奉仕委員会のテーマとして話し合ってみるのはどうか？



地区研修・協議会 第5分科会

社会奉仕部門

式次第

1. リーダー、サブリーダー、アドバイザー紹介
 - リーダー 高山 和宏 地区委員長 (札幌東RC)
 - サブリーダー 石本 要 // 副委員長 (倶知安RC)
 - アドバイザー 熊澤 隆樹 パストガバナー (小樽RC)
 - ガバナー補佐 成田 豊 11G担当 (函館北RC)
 - // 橘 勇治 12G担当 (苫小牧北RC)
2. ①災害対策委員会の活動報告
 - ②地区補助金の活用について
3. ①現状一番力を入れているプロジェクト
 - ②今後の新しいプロジェクト
 - ③災害支援対策 (胆振東部地震)
4. アドバイザー講評

報告事項

本分科会の目的は、次年度委員長に地区内の奉仕事業の情報共有と、自クラブでの事業のヒントを与えること、また、他クラブ委員長とのつながりをもってもらうこと。

2. ①災害対策委員会の活動報告

詳細は当日配布資料p.120、122 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

p.123 ロータリークラブの神髄 (財界さっぽろ記事) を参照のこと

- ・災害対策委員会 委員長として社会奉仕高山委員長、副委員長に職業奉仕玉井委員長・クラブ奉仕岡崎委員長、委員 社会奉仕委員
- ・12/25 3町へ教育・福祉振興資金として500万円ずつ贈呈 以下内訳
 - 厚真町 生活相談支援員活動のため、軽自動車2台贈呈
 - 町内小中学校の備品と「週末こども広場」に必要な備品購入費用
 - 安平町 早来中学校の仮設校舎整備費用として
 - 鶴川町 鶴川高校学生寮仮設寮建設費用として
- ・2月2日厚真町ランタンまつりへ応援バスツアーの実施 (約90名参加)
- ・今後の使途予定として
 - 仮設住宅へペットゲージの寄贈及びワクチン接種 etc.

今後は、各クラブから提案いただいた支援事業を地区委員会も協力しながら実施したい。

②地区補助金の活用について

2018-2019年度の申請状況 69クラブ中41申請41承認 28クラブが未活用

2019-2020 2017-2018未配分の\$112,857まで追加

19人以下の小規模クラブ 寄付金1/4から10万円まで増額

3. ①現状一番力を入れているプロジェクト（各クラブから発表・質疑）

- ・砂川RC 市内知的障がい者、家族、教員、RC会員を対象にボート、カメラ、りんご狩りを実施 100名程の参加 子供たちの笑顔は家族に大変喜ばれている
- ・蘭越RC 特老ホームの慰問、後別川のクリーン作戦（全町的な広がり）
- ・苫小牧東RC 高専留学生との「053」ゼロゴミ作戦 グリーンナンバー看板周辺の清掃
苫工卒業生対象に交通安全講和の実施 青少年合唱団への支援（ゼロゴミの歌の係わりから）
- ・苫小牧北RC 苫小牧家庭生活RCCカウンセリング協会へカウンセリング・マインドの普及、心のケア貢献協力、小学生サッカー大会の主催
- ・江別RC 社協「福祉機器貸与事業」へ電動介護ベッドの寄贈（地区補助金を使い）

②今後の新しいプロジェクト

継続事業に注力したいクラブや、予算・人の問題から新事業のスタートは困難なクラブが多い。

- ・岩見沢RC 子供食堂←社会福祉法人←RC支援 ローターアクトからのアイデア
- ・当別RC 子供食堂←運営協議会の立ち上げ
- ・真駒内RC 犯罪被害者支援（予期せぬ不幸→人道的奉仕→協賛金、講演会）
- ・札幌東RC ろう、難聴、中途失聴者との交流（フットサル、車いすカーリング）←北海高校ローターアクトの協力

③災害支援対策（胆振東部地震）

- ・9つのグループに分け討論
- ・子供のケア→コンサートへ招待 物と心の両面支援が必要
- ・被災地の状況がわからない→被災地の声を聞くこと
- ☆社会奉仕担当者でツアーを組み、現地ニーズを把握
- ・人 物 事 事をより重視した支援を
- ☆3町特産品販売イベント（地区大会等、各クラブイベントにて）→益金の使い道は子供たちに考えてもらう
- ・教育資材の助成
- ☆自分たちの職業を通じた被災地への支援

地区と各クラブとの連動支援の必要性和りよがりにならない支援を全員が認識

4. アドバイザー講評

地区補助金は過去の未配分の金額が増額されている

2019-2020 45クラブの申請を計画している

小規模クラブにとってはより高配当の補助金となった（10万円限度）

社会奉仕委員会事業こそ地区の補助金を有効活用し、各クラブの活動を活性化させる起爆剤としてほしい

地区研修・協議会第6分科会

国際奉仕部門

4月14日千歳市北ガス文化ホールにおいて、13:00より次年度国際奉仕部門の分科会を開催いたしました。分科会の講師としてリーダーは私、2019-2020年度第2510地区国際奉仕・VTT委員会委員長 谷口正樹(滝川RC)が勤め、サブリーダーを田口廣次期第7グループガバナー補佐(千歳セントラルRC)、アドバイザーとして国立金助パストガバナー(函館RC)、オブザーバーとして水野建次期第10グループガバナー補佐(森RC)、今野良紀次期地区幹事(千歳RC)の五名をスタッフとして、参加者48クラブの次年度国際奉仕担当者の出席をいただき、約2時間のセミナーを開催いたしました。

地区協議会の特に「第6分科会」は各クラブ国際奉仕担当者へ地区国際奉仕活動の理解を深めていただくとともに、地区より各クラブへの事業のプレゼンテーションの場でもあります、もちろん各クラブの国際奉仕担当者へ私自身の言葉で伝える、数少ない次年度事業へ向けた重要な場でもあります。緊張の中、冒頭「RI」の国際奉仕の関する考え方・「第2510地区」の国際奉仕活動の歴史・重点活動方針・活動エリア・今後の将来像等を動画等を交え45分程度説明していききました。休憩をはさみ「第2510地区」のVTT活動について歴史・現在の活動内容等をPRVTR等を利用して説明していききました。そののち委員長である私より長く地区の国際奉仕活動にかかわっているサブリーダーの田口次期ガバナー補佐より国際奉仕活動にかかわって見た感想及びご自身の意見をいただきました。次に私から「2019-2020年度国際奉仕事業モデルプラン」を説明、プランは20年にわたるタイ東北部を中心とした貧困小学校への「浄水器設置事業」「既存浄水器メンテナンス事業」「図書館拡充事業」「奨学金事業」の4パターンを提案しました。今後参加された各クラブ国際奉仕担当者がクラブへ持ち帰り、次年度のそのクラブの国際奉仕事業として理事会等へ提案していただきたいと願っています。最後に国立パストガバナーより総評をいただきました、パストガバナーご自身が昨年「検証ツ

アー」に参加され、その経験及び体験から国際奉仕活動のすばらしさをお話いただきました。セミナー後、各クラブの国際奉仕のかかわりに関するアンケートをいただき、その結果を委員会等にて参考にし、今後の事業へつなげていきたいと考えています。

2時間のセミナーを振り返ると、なかなか自分の言葉が伝わっていない気がします、しかし何とか例年通り、またそれ以上の事業展開をしたいと考えています。今年度34のクラブの参加がありました、次年度はそれ以上の事業申請を期待しています。最後に、この分科会が問題なく順調に進行できたのは、ホストクラブであります「千歳セントラルRC」の皆さんのおかげです。注文の多かった設営にご対応いただきましたことに深く感謝します。

最後に皆さんにお願いです。国際奉仕は英語で言う「インターナショナル・サービス」であり、これは世界中に広がったロータリーのネットワークを利用した奉仕活動です。このダイナミックな奉仕活動にぜひご参加ください。

地区研修・協議会 第7分科会

青少年奉仕部門

青少年奉仕委員会

1 インターアクト委員会

まずは「インターアクトとは」という話をさせてほしい。

インターアクトクラブについて知ってもらい、できれば新しいインターアクトクラブの提唱をしてもらいたい。地区内には6つのインターアクトクラブがある、10年前は9クラブがあった。

6クラブ中、札幌に4クラブ、岩見沢1クラブ、室蘭1クラブ。札幌以外にインターアクトクラブを作りたい。インターアクトクラブとは、12～18歳の中学・高校生が、地元でのボランティア活動や海外のインターアクト会員との交流を通じて視野を広げ、国際感覚を養うプログラム。

インターアクターとボランティア部との違い

インターアクトクラブはロータリークラブの精神を理解してボランティア活動と国際親善活動をする若者のクラブ。2510地区でも早い段階からインターアクトクラブは活動してきた。1965年に北海道大谷室蘭高校で設立。

地区の委員会として大きな行事は3つ

1. 国際理解を深めてもらうための海外研修(台湾)

今年は初めてホームステイを取り入れる

2. 2510地区のインターアクターが二日間、研修と交流を深める年次大会

3. 地区大会での青少年プログラムへの参加

高校生たちがロータリアンと交流しながらボランティア活動をしたり、国際理解を深めるのは大変有意義なプログラムなので、提唱クラブになっていただきインターアクトクラブを増やしていただきたい。

2 ローターアクト委員会

ローターアクトの今後の活動として、本年4月28日・29日に福岡にて開催される第31回全国ローターアクト研修会にて第33回全国ローターアクト研修会開催地ホストとして立候補し、代表者会議にて承認を得たのちに地区内(ロータリークラブ及びロータリアン)に支援要請等PR活動の実施、地区外(友好地区及び全国のローターアクト)登録参加等PR活動の実施を開始する。

併せて、学友会発足式の実施・新設ローターアクトクラブの発足及びローターアクター会員増強等に力を注ぎ活動していく。

例年通りの活動として、地区協議会・地区大会の実施、次年度は当地区にて北海道交流会(岩見沢市内開催予定)のホストをつとめる。

本年は叶わなかった、ローターアクト提唱クラブ以外のロータリークラブとの奉仕活動を実施したいと考えている。

次年度は、一つでも多くのロータリークラブ及びロータリアンの皆様にローターアクターと奉仕活動を行っていただき、ローターアクターの有用性を知って頂きたいと思う。

今後とも、ローターアクトの活動にご理解いただき、より一層ローターアクトの認知度を上げていけるよう努力していくので、皆様のご協力を宜しくお願いしたい。

3 青少年交換委員会

プログラム概要

応募時15歳以上 19歳未満で、中程度以上の学業成績があり、ロータリーの親善大使として積極的な態度をもつ男女。ロータリー会員の子であるか否とは問わないが保護者と在籍学校および推薦ロータリークラブの全面支援を必要とする。

スポンサークラブの推薦必須(派遣候補生)
 ホストファミリー受入必須(派遣候補生)
 オリエンテーション出席必須(派遣候補生、保護者、受入学生)
 ROTEX活動へ積極的に参加
 ここ3年間での交換状況
 交換人数:毎年3名
 交換先:アメリカ、オーストラリア、フィンランド

課 題

10年以上前は10名以上の交換が行われていた時代もあった。
 年々応募人数が減少している。
 交換が途絶えないことが現在の課題である。

減少理由

- ・ロータリアンの子や孫、関係者の応募が激減
- ・クラブ内でのホストファミリー確保が困難
- ・クラブでの資金不足

今後の対策

- ・近郊の高校への宣伝
 例:市内高校へのポスター掲示
- ・近郊高校への説明会開催
 例:2018年度学校説明会開催したところ応募希望の学生が8名も居た
 (*この場合エントリー者のスポンサークラブを見つけなければならない*)

参加クラブ負担金等

受入学生1人当たりのおおよその必要経費900,000円前後(内受入クラブ補助金:310,000円)
 約600,000円のクラブ負担
 ~内訳~

受入高校への必要経費の支払い、ホストファミリーへの補助、おこずかい、その他雑費
 青少年交換事業に参加しやすくするための例

- ・第4第5グループでは、グループ内の参加クラブに対して独自のファンドがあり配布されている。
- ・青少年事業に使用するためのクラブ独自の積立金がありそこから捻出しているクラブもある。

ご提案

地区独自で人頭分担金を設け、参加クラブに対しての助成金を設けると小規模クラブでも参加がしやすくなる
 と思う。

派遣学生ご家庭必要費用

900,000円程度

~内訳~

旅費、ビザ申請費、保険費用、その他雑費特別行事参加費など

4 ROTEX=青少年交換学友 (ROTary EXchange)

- ・国際ロータリー青少年交換プログラムによる一年間の海外での留学生生活を体験し、日本へ帰国した帰国学生による組織。
- ・自らの留学経験を活かし、当プログラムによる派遣生、来日学生の留学生活がより良いものになるようにサポートしている。

一般社団法人ROTEXの存在

2015年6月17日設立

年会費3,000円(任意)

<http://www.rotexjapan.org/>

ROTEXの役割

- ・日本に来ている学生のサポート。文化や言語の違いから生じるであろう来日学生の不安や戸惑いに対し、経験者として助言をすることにより、よりよい留学生活を送る手助けをしている。言語的にも、その受入学生の母国に派遣されていたROTEXがいることが多いので、特にプログラムの初期の来日学生にとって大きな助けになることができている。
- ・派遣されている学生、派遣予定学生へのアドバイス。初めての長期留学は慣れないことばかりで色々悩むことが多い。そうした派遣生からメール等で相談されることも多く、それに対して自分たちの経験を踏まえてアドバイスをして彼らが充実した留学生活を送り、また平和の親善大使としての仕事をまっとうする手助けをしている。
- ・派遣来日学生のサポート、ロータリー行事でのお手伝いなどで、ROTEXが行事を企画運営することもある。通常はロータリアンが来日学生にカウンセラーとしてつくが、年齢がかなり離れているので、学校などでの小さな問題をもっと気軽に話せるように、ROTEXがジュニアカウンセラーとして学生につき、サポートしている。

RID2510の現況

- ・青少年交換委員会にて3年前より組織作りに着手
- ・Facebookを活用し非公開グループを作成
- ・地区内青少年交換委員会行事の案内、派遣候補生/受入学生へのサポート
- ・2019年現在42名がFacebook ROTEXグループに登録

RID2510 今後の課題

- ・帰国学生へROTEXの必要性の周知
- ・一般社団法人ROTEXへの登録促し(会費の納入は任意)
- ・地区内ROTEX組織化
- ・具体的活動案作成実施

2019-2020年度目標

- ・ROTEX委員会開催
- ・組織作り、具体的活動話し合い
- ・最低1回ROTEX企画行事の試験実施
- ・可能であれば他地区ROTEX活動視察

5 RYLA担当

RYLAセミナー2019開催概要

日 時 2019年5月18日(土)～19日(日)1泊2日

研修地 アポイ山荘 様似町字平字497-7 TEL 0146-36-5211

参加資格 20歳から40歳の男女及びロータリアン

募集人数 30名程度

登録料 15,000円

テーマ 共に感じよう北海道の自然を!共に守ろう地球の自然を!

研修内容 高山植物の変化や減少、登山道の浸食、エゾシカによる食害、世界ジオパーク加盟の意味、かんらん岩の資源活用などを学びながら、RLI方式による深化とリーダーシップの養成を目指す。



第8グループインターシティー ミーティングを終えて

2018-2019年度 国際ロータリー第2510地区

第8グループガバナー補佐 **小 関 孝 雄** (浦河RC)

2月24日(日)第8グループの情報交換と親睦を図るインターシティーミーティングを85名の参加で浦河町の浦河ウエリントンホテルで開催いたしました。

ホストクラブ榊会長の歓迎挨拶のあと、来賓の日高振興局長の松浦英則様、浦河町長の池田拓様がそれぞれの立場からロータリーの奉仕活動に感謝の意を述べられ、小山司ガバナーからは、「事業は単年で終わる事なく、次年度にも継続する事が大切」と挨拶を頂きました。

記念講演では、大石清司米山記念奨学・学友委員長に「世界に羽ばたく米山奨学事業」と題して講演頂きました。ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。年間の奨学生採用数は780人(枠)事業費は13億円(2016-17年度決算)と、国内では民間最大の国際奨学事業となっています。これまでに支援して

きた奨学生数は、累計で19,808人(2017年7月現在)。その出身国は、世界125の国と地域に及んでいます。

続いて、日本に3名いる「よねやま親善大使」の李英愛(イヨンエ)さんに「よねやま親善大使に選ばれて」と題し講演を頂きました。北海学園大学院博士課程在学中の3年間に米山奨学生となり、奨学生終了後も日韓のクラブの橋渡し役を果たした米山学友として、クラブを積極的にまわって卓話を行い、2018年7月より、「第3代よねやま親善大使」の委嘱を受け、活動している事を講演されました。

最後に、米山奨学生のヒルダ・アマリアさん(インドネシア出身)がインドネシアの舞踊を披露され、参加者全員で踊り、盛り上げて頂きました。

米山奨学会を学ぶ事ができ、有意義なインターシティーミーティングを開催できました事に、この誌面をお借りして、ご参会いただきました皆様に心よりお礼を申し上げ、報告といたします。





“変革”をテーマに インターシティーミーティング開催 (RI第2510地区第4・第5グループ合同)

2018-2019年度 国際ロータリー第2510地区

第4グループガバナー補佐 **中村和雄** (札幌手稲RC)

2018-2019年度RI第2510地区第4・第5合同インターシティーミーティングは、3月23日(土)13時より、札幌パークホテルで開催されました。

ホストクラブは札幌手稲RC、コ・ホストクラブは札幌東RCです。

テーマは小山司ガバナーの地区目標であります“変革”を受けて「日本のロータリー100年“今、変革のスタート!!”」とさせていただきます。

まず第4グループガバナー補佐である私の開会の言葉・点鐘でスタート、中川原IM実行委員長、ホストクラブの池田会長より挨拶の後、RI第2510地区小山ガバナーよりご挨拶いただきました。

第1部の基調講演は、初代札幌市立大学学長の原田昭氏に「AIと組織の変革～あなたの会社に明日からすぐに役立つ」のテーマのもと、様々な過去のデータをもとにご講演をいただきました。

謝辞は、第5グループ関堂ガバナー補佐よりお礼の言葉が述べられました。

第2部は、RLI(当地区が今年度より採用した研修方式)を用いた大ディスカッションを実施しました。

各テーブル9名(DL、書記を配置)が予め決められていたテーマにより27テーブルで約1時間、活発に

意見交換がなされました。

事前に研修を行ったDL(ディスカッションリーダー)のスムーズな進行とクラブや入会回数を基に座席配置したことにより時間が足りないくらいの盛り上がりを見せておりました。

ディスカッションの終了後6テーブルから代表者による発表が行われ、最後に小山ガバナーより講評をいただきました。

そして、第5グループ関堂ガバナー補佐の閉会の言葉および点鐘で、成功裡に終わることができました。

第3部の懇親会は、コ・ホストクラブの山口会長より開会挨拶の後、小山IM実行副委員長の乾杯でスタートしました。

青少年交換留学生の紹介や、次年度第4、第5グループガバナー補佐の紹介が行われました。

どのテーブルも笑顔が多く、時間を忘れて話に花が咲いていたようです。

閉会の言葉は、朝倉IM実行副委員長にいただき、最後はロータリーソング「手に手つないで」で幕を閉じました。





『原点を振り返り、広げようロータリーの輪を』 第10・11グループインターシティ ミーティングの報告

2018-2019年度 国際ロータリー第2510地区

第11グループガバナー補佐 **田嶋英人** (函館五稜郭RC)

3月30日(土)、表題をテーマに、小山司ガバナーをお迎えしてインターシティミーティングが開催されました。

当日は10・11G合同例会から始まり、IM(インターシティミーティング)、IM懇親会と4時間にわたる充実した会合でした。等10・11グループ会員の全員登録341名、本会議参加者199名と大盛況でした。

16:45光銭裕二IM運営委員長の「開会の言葉」でIMはスタートしました。

点鐘に続いてのIMリーダー挨拶は、第10G担当赤塚章ガバナー補佐から「一昨年のガバナー補佐研修セミナーの際、小山ガバナーが話された言葉が原点となり今日のIMとなりました。」とのお話がありました。

続いて、小山ガバナーのご挨拶を戴きその後パネルディスカッションへと移りました。

パネルディスカッションは、11G担当の私からの趣旨説明および基調講演でスタートしました。

『いま、改めて思い出しますのは「ガバナー補佐研修セミナー」で、小山ガバナーが話された「ロータリーの原点、基本に返って学び直しましょう」という主旨の言葉です。その意図するところは、ロータリーの原点に戻り、改めて基本に触れて学びなおし、今日からの行動に活かしていこう……こう云う事でした。

今、ロータリー活動は大きな変化の流れの中に置かれています。

ロータリークラブ(以降RC)の存続や発展のための新たな戦略が必要だと云われています。

2016年、規定審議会の決議事項は、柔軟性という言葉のもとに大きな変化をクラブにそして私たちロータリアンに求めています。

「ロータリーを持続するためには、現状からの変化が必要です。柔軟な発想で前進するための行動をしましょう」とのRIの呼びかけの趣旨には、誰も異を唱えるものではありません。

「変えなければならないもの」と「変えてはならないもの」とは何か？

私たちロータリアンには前に進むことが求められています。小山ガバナーが年度当初に提唱された地区目標「持続可能な絶え間なき変革のスタート」は何かからきっかけを見出し前進する活力となることをクラブにそして私達ロータリアンに求めていると理解しています。

多くの先輩方から受け継がれたロータリー活動やロータリー精神を、次の世代へと正しく引き継ぐ責任が私達世代にはあります。

いま各クラブはその活性策について試行錯誤を続けています。

最近のロータリーの変化について思うことは何ですか？

今年度のIMはテーマに関する各会長の様々な視点からの提言に学び、インスピレーションとなる機会にしたいと思っています。

皆さんがロータリアンになろうと思った動機や、入会当時の気持ちを思い起こし、そして今日までのロータリー活動を振り返りながら、パネラーの皆さんの多様なご意見から、明日からの活動のヒントが見つければ大成功と思っています。

その後、赤塚ガバナー補佐より補足をいただき、その後11クラブの会長よりテーマに関しての多くの提言をいただきました。

最後に、小山ガバナーから所感を頂戴しIMは幕となりました。

この後、函館五稜郭RCのクラブバンドによるGS演奏を聴きながら楽しい親睦を2時間に亘り行い、最後に「手に手つないで」の大合唱で幕を下ろしました。

第10・11Gロータリアンの皆様のご協力に感謝し、そして衷心よりお礼申し上げます。有難うございました。



Challenge & Opportunites 2018-19

2回目の今月号では、札幌真駒内RCの犯罪被害者の尊厳と権利を守る支援活動について紹介致します。これまで社会的弱者であった犯罪被害者の実情を知り、支援の手を差し伸べるといふ崇高な理念に基づいた活動について同クラブの会員で元検事、現在は弁護士として活躍されている山田会員が素晴らしい原稿を寄せて下さいました。ご一読下さい。



札幌真駒内ロータリークラブ

山田 廣

被害者の尊厳

涙の法廷

2015年7月3日午前11時、札幌地裁で一番広い805号法廷は異様な雰囲気になりました。傍聴人席はすすり泣く声で溢れ、裁判員らも涙を堪えることが出来ず、検察官は目頭を押さえたまま身動き一つしません。被害者参加人弁護士として被害者とともに検察官の横に座っていた私も胸が熱くなったのを今でも覚えています。小樽市銭函で2014年7月13日に発生した、海水浴帰りの女性4人が死傷した小樽飲酒ひき逃げ事件の公判。この日は死亡した3人の女性の母親3名と父親1名、重傷を負った女性1人の母親による心情意見陳述が行われました。法廷の大きなモニター画面に、死亡する30分前に撮影された、浜辺での3人の笑顔のスナップ写真が映りました。この写真はニュースで何度も報道されて覚えておられる方も多いと思います。「私の命と引き換えに娘が生き返るなら、すぐにでも死にます。」いまだに癒えぬ悲しみの中、父母らが涙ながらに必死に語る一言一言は娘に対する愛情に満ち溢れ、さらに事件の悲惨さを余すところなく伝えるもので誰もが胸を打たれました。

劣悪な社会環境

今では、被害者は裁判に参加し、被告人や証人に質問したり、心情意見を述べたり、被害者論告もすることが出来ます。このような制度は、2004年に成立した「犯罪被害者等基本法」(以下「基本法」という。)に基づき、2007年の刑訴法改正で初めて認められたものです。刑事司法の場では、被害者は証拠品に過ぎず、被害者は事件の当事者にもかかわらず、刑事記録を閲覧・謄写することもできません。真相を知るには傍聴するしかなかったのですが、傍聴席から被告人に向かって、思わず「嘘つき」と叫んだら退廷命令を受けました。マイクのボリュームを上げてくださいと言ったら、「傍聴席に聞かせるために裁判をしているのではない」と冷たく言われました。被害者は刑事司法の蚊帳の外にいたのです。遺族は突然死を受け入れることができず、心の時間は止まり、悲しみは時間が経っても薄れることはありません。精神的ケアを受けられる社会環境ではなく、マスコミによる過熱

取材、それに世間の好奇の目にさらされます。国からの経済的な補償は少額であり、加害者からの賠償もほとんどありません。

被害者の叫び

被害者は人権が侵害された最たる存在であるにもかかわらず、長年にわたり社会から完全に疎外されていたのです。では、何が起きて、どのような事情から基本法が成立したのでしょうか。

1995年から1999年にかけて、世間を震撼させる凶悪事件が続発しました。地下鉄サリン事件、神戸児童殺傷事件、岡村弁護士夫人殺害事件、光市母子殺害事件、桶川女子大生ストーカー殺人事件、池袋通り魔殺人事件などです。ついに被害者遺族が我慢できずに勇気を振り絞ってマスコミの前に立ち「もう同情や哀れみはいらない。実態を知って欲しい」と叫んだのです。

1998年12月10日の読売新聞朝刊に岡村弁護士の寄稿文『司法の扉 被害者に開け』が掲載されました。刑事弁護専門の岡村弁護士が、初めて被害者遺族の立場で裁判にかかわったときの驚きの体験を綴ったものですが、多くの国民に衝撃を与え、政財界からも多くの支援の声が上がりました。2000年には、岡村弁護士ほか前記の凶悪事件の被害者らが集まり、「あすの会」を設立します。設立趣旨は、「犯罪被害者の権利と被害回復について、国に働きかけ、その確立を目指す」というものです。この年の10月にNHKスペシャル『犯罪被害者はなぜ救われないのか』が放映され、被害者の劣悪な社会環境が全国的にも知れる契機となります。その後、「あすの会」は、2回にわたりヨーロッパ調査を実施し、「報告書」を世に出しました。被害者の権利の回復にしても、経済的補償にしても、ヨーロッパの諸国と比較して、我が国が大きく立ち遅れていることが明らかになりました。さらに「あすの会」は、2002年12月から1年半にわたり、全国50ヶ所「被害者のための司法改革」を求める署名活動を展開し、55万人もの署名を集めます。被害者支援の社会的な意味が明確に示されました。

- 現代社会では、誰でも予期しない犯罪に遭う可能性があること「被害の可能性」
- 被害者は、重大かつ深刻な人権侵害を受けること「人権の侵害」
- 刑事裁判では被害者は単なる証拠品であり、被害者の尊厳への配慮がないこと「司法の不備」

基本法の成立

ついに国民が目覚めました。被害者の悲惨な現状と法制度の不備に驚くとともに、被害者をこのままにしておくことは法治国家として許されない、日本の恥ではないか。理解の輪は大きくなるとなり、全与野党賛成のもと、2004年11月18日に衆議院を通過、12月1日参議院で可決成立しました。「あすの会」が設立されてから5年で「犯罪被害者の憲法」ができたのです。基本法は、被害者支援の基本理念として、「被害者はその尊厳にふさわしい処遇が保障され、被害の状況に応じた適切な支援が講じられること、再び平穏な生活ができるようになるまで支援が継続して行われること」と宣言しました。

このような基本法の成立の経過を見ておわかりかと思いますが、我が国の被害者支援制度は、止むにやまれずに被害者ご自身が勇気をもって声を上げ、自ら立法運動の中心となって動かなければ果たせなかつたものです。これは欧米の支援制度が被害者を支援する市民組織の運動により制定された事情とまったく異なるものです。

被害者の尊厳と権利

被害者の尊厳を守るという基本理念から導かれる被害者の具体的な権利は3つに分かれます。

- 知る権利です。犯罪の事実関係を知るということです。
- 経済的、精神的、身体的被害から回復する権利です。基本法は、被害者への立ち直りの支援は、国や都道府県ら自治体、国民の責務であると明記しています。
- 刑事裁判に参加する権利です。

被害者は、事実の解明と被害者の名誉の回復、そして適正な刑罰を求めて裁判に参加します。誤解のないように申しますが、これらの権利は被害者に対し特別な権利を認めるものではありません。基本的な人権が侵害された被害者に対して、誰でもが享受している人権のレベルまで権利を回復するためのものです。被害者は裁判に参加し、被告人に対して適正な刑罰が科せられることを強く希望します。しかし、死刑を求刑しても無期懲役の判決が下されることもあります。このような場合でも、被害者の心情に十分配慮された裁判手続きであれば納得し、明日への立ち直りの一步になるのです。基本法に基づいて内閣府は2005年に第1次「基本計画」(258施策)、2011年に第2次「基本計画」、2016年に第3次「基本計画」を策定し、被害者参加制度、加害者に対する損害賠償命令制度、少年法の被害者の審判傍聴、給付金の増額、殺人事件の時効廃止、被害者参加人の旅費支給、性犯罪の重罰化など、次々と立法化されました。いずれも被害者の尊厳に配慮したものです。しかし、欧米とは違い、抜本的な経済的補償法がまだ制定されていません。また、法制度の運用にもまだまだ問題があります。

命の重さ

なぜ、冒頭の小樽飲酒ひき逃げ事件の被害者遺族の言葉が胸を打つのでしょうか。それはご遺族が命の重さを語っているからにほかなりません。さらに被害者の言葉は、私たちにとって何が「幸せ」であるかも教えてください。陽だまりの日常生活の中では、「しわあせ」の四文字は、表からは陽に照らされて見えにくいものです。しかし、被害に遭って悲しみの淵に立ち、裏に回ったとき、「しあわせ」の四文字は暗闇の中にはっきりと見えてきます。

命の重みを知るということは、自分そして家族の命の大切さを知るということです。『ロータリーの友』4月号の特集は「命の重さ」を取り上げ、我が国の若者(15歳～34歳)の死因のトップが「自殺」と指摘しています。私は被害者ご遺族のお話を直接に聞くことは、学校での法教育として必要なことと考えています。

社会奉仕

2010年1月、犯罪被害者の意思を尊重し、被害者に寄り添った支援の実現を目指して「犯罪被害者支援弁護士フォーラム」(略称「VSフォーラム」)が結成されました。被害者を支援する有志による弁護士の集団です。私は共同代表を務めています。自ら関わった裁判の支援実務を通して、あらたな立法の提言と、法の運用の改善を求めることが目的です。また毎年、東京でシンポジウムを開催しており、現職の法務大臣から挨拶をいただいております。

札幌真駒内ロータリークラブでは、社会奉仕活動の一つとして、昨年度からVSフォーラムの会員から被害者の実情と支援活動について講話を聞くとともに、VSフォーラムの活動に対して協賛金の支援を行っております。全国的に見ますと、すでに大分中央ロータリークラブが「被害者支援サポート委員会」を設置し、さまざまな支援活動を展開しています。被害者支援は命の重さを支える人道的奉仕です。ロータリーの社会奉仕活動として有意義なものであると確信します。

私は、元検事として毎日のように被害者にお会いし、社会から疎外された実態を目の当たりにして、弁護士になってからは被害者支援をライフワークとする決意をしました。また、2年前に発足した北海道犯罪被害者支援委員会の委員長として、弁護士会と道内の各地検や道警、民間支援団体など、被害者支援にかかわる関係機関との連携の在り方について、検事長や検事正、道警本部長にもお会いして協議を続けています。

本稿により被害者に対する理解が深まることを期待します。





『7月28日、PMF* 1 hitaruコンサートへ ロータリーが300人の中高生を招待する』

宮部 光 幸 (札幌モーニングRC)

昨年のPMFのキタラでのガラ(祝祭)コンサートに小樽の知り合いと伴に出かけたのだが、チケット完売の筈が、100席程が空席だった。3時間余りの演目は聞き手を飽きさせない構成で、途中で花火も揚がる楽しいもの。知り合いが同伴したお孫さんも楽しんでいる。そして後半のマーラーの交響曲では居眠りしたオジイちゃんを尻目に、しっかり楽しんで、帰り際には当日のオーケストラのメンバーと記念写真を撮っていた。是非とも、空席を若者たちにプレゼントしたいと思った。

そのようなことを思ったのは、かつてこんなシーンを見たことがあるからだ。ダラスのモートン・マイヤソン・シンフォニーホール入場口に30人程の青少年が空席待ちの列を立てていた。開演15分前、聴衆の入場が一区切りついた頃、この青少年が空き席を埋めていった。満席の場合でも実際は100席ほどの空席が出るという。これを青少年へ提供する事例。若者への音楽文化の提供の風景だった。

PMF組織委員会の林さんにこの方法について話したところ、当日キャンセル分の若者運用は今後の課題だとの回答だったが、『ヤング向け格安チケット枠を拡大する方法でPMFコンサートへの若者参加増を図りたいので協力してほしい』旨の話となった。これが昨年秋の事。次世代の音楽家を育てる教育プログラム、PMFに青少年育成の活動しているロータリークラブが参加するのは極々自然なことと思っていたので、4・5グループ合同の会長・幹事会の折、次年度ガバナー補佐の挨拶で、組織委員会からの協力要請について話してみた。

『7月28日、札幌の新装なったオペラハウスhitaruでのPMFコンサートへロータリーが300人の中高生を招待する。ついてはチケット費用をクラブで分担できないだろうか』。千円のチケットの300席分。30万円の話

と説明した。ところが、唐突な話とも思われるこの申し出に、会の帰り際に、早速1クラブから購入協力の申し出があった。言語の壁を越えて感性を共有する音楽。PMFが地域の国際化の柱となることに、メンバーは気が付き出していると思った。

今年の青少年招待の件は組織委員会のチケット販売開始のスケジュールとの兼ね合いで、グループ全クラブへの働きかけの時間は無かった。このため直接、顔見知りのメンバーにお願いした。申し込み期限の3月末、協力が7クラブとなった。招待する先はクラブの関連するインターアクトの学校、或いはこれまでの事業で関わりのあるグループ等、購入クラブの判断にお任せすることとした。このうち100枚程度についてプレゼント先を任せるというお話があった。地区の米山学友、市内の大学のボランティア活動グループへの招待へと現在展開している。

ロータリークラブのインフラという言葉が近年聞かれる。人脈の組織的な運用の事かと思う。ただ、この青少年招待話の場合、本当に『お願いの次元』を超えていない。ひたすら『お願いしますの連続』である。が、実のところこの形、『ロータリーのインフラの原型』ではないか、とふと思ったりする……2019年4月22日

*1PMF パシフィック・ミュージック・フェスティバル

作曲家 レナード・バーンスタインが主唱する世界の若手音楽家をそだてる国際教育音楽祭。1989年天安門事件により北京開催断念。札幌が候補地として急浮上。1990年第1回PMF開催。以降継続し本年第30回を迎える。

新会員のご紹介

(敬称略)



えりもRC
橋本 維応
3月1日入会
建設業



室蘭北RC
櫛引 秀明
3月12日入会
ホテル



札幌北RC
赤木 道子
4月1日入会
生命保険



千歳セントラルRC
桑島 昌子
4月2日入会
芸術家業



札幌西北RC
山岸 暁雄
4月4日入会
電力供給



小樽RC
影山 豊彦
4月9日入会
土木



新札幌RC
金田 成高
4月10日入会
食品加工業



新札幌RC
小沼 邦洋
4月10日入会
生命保険

訃報 謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します



芦別RC
瀬戸 一郎 会員
2019年3月20日 逝去(享年83歳)

【ロータリー歴】
1975年12月26日 入会
1983年-1984年 幹事
1995年-1996年 第39代会長

【表彰】
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



江別RC
藤原 敏雄 会員
2019年3月26日逝去(享年72歳)

【ロータリー歴】
1995年5月 入会
2011年-12年度 幹事
2015年-16年度 会長

【表彰】
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

【深川ロータリークラブ事務所変更のお知らせ】

5月1日より深川ロータリークラブ事務所を下記に移転します。

住所 深川市4条9番40号
名称 深川市地域交流施設「プラザ深川」3階
電話 0164-34-6228(ファックス兼用)
尚、メールアドレスは変更ありません。

お手数をお掛けしますが、何卒よろしく御願い致します。

米山奨学生の紹介 YONEYAMA SCHOLARSHIP



日本での8年間

HAUGEN MAX (ハウゲン マックス)
(スウェーデン)
酪農学園大学・江別RC

語学にずっと興味があった私は黒澤明の映画によって日本語に興味を持ちました。2011年4月13日に地元のヨーテボリからバスで首都のストックホルムまで移動し、そこから飛行機に乗って来日し、日本での生活が始まりました。最初の2年間は仙台にて日本語学校に通って暮らしていた。最初はその2年間だけの、スウェーデンの大学に入る前の留学の予定だったが、日本語学校の卒業が近づいてきた時期に残ることにした。2013年に北海道江別市の酪農学園大学に野生動物保護管理学を専門にして進学した。そこでの4年間のうちに色々な経験を積んできた。全道的な野外調査と全国

の学会参加などはもちろん、環境省の業務によって海外視察に行ったり、札幌での国際学会大会の運営にも携わった。学部の卒業論文のテーマは釧路湿原国立公園で、銃によるシカの捕獲の可能性について検証した。それ以外は海外のアザラシ対策やシカの獣道によってシカの密度をUAVで検証することにも試みた。現在は大学院に上がりクマに関する研究を行っており、これからも野生動物の分野に携わりながら進んでいきたいと思う。

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

江別西RC	石黒 良平 会員 (11回) 3月13日	札幌清田RC	阿部 哲夫 会員 (3回) 3月15日
札幌清田RC	小仲美智子 会員 (2回) 3月15日		

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

小樽RC	泉 侑 会員 (3回) 3月28日
小樽RC	笠間 茂 会員 (3回) 3月28日
小樽RC	津田 哲哉 会員 (3回) 3月28日
伊達RC	西川 正 会員 (1回) 3月12日
伊達RC	河原 文博 会員 (2回) 3月12日
伊達RC	荻野 秀二 会員 (2回) 3月12日
伊達RC	大坂 清勝 会員 (2回) 3月12日
伊達RC	川南 忠三 会員 (3回) 3月12日
函館RC	金子 敦 会員 (1回) 3月15日

ポール・ハリス・フェロー

小樽RC	星野 昭雄 会員	3月28日
小樽RC	小川 修正 会員	3月28日
小樽RC	佐藤 勝次 会員	3月28日
伊達RC	川西 正敏 会員	3月12日
伊達RC	鈴木 敏則 会員	3月12日



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

2019.4.12

Vol. 229

【訃報】名誉理事長 板橋敏雄氏 逝去



当会名誉理事長（前理事長）の板橋敏雄氏が、3月23日にご逝去されました。享年89（満88歳）でした。

板橋氏は1962年に足利東ロータリークラブに入会され、1987-88年度第255地区（栃木・茨城）ガバナー、

1995・96年度国際ロータリー研修リーダー、2001-03年度国際ロータリー理事など、ロータリーにおいて要職を歴任されました。

当会においては、2003-07年度監事、また、2007年8月からは7年間にわたり第5代理事長をお務め

いただきました。ご自身の長いロータリー歴の中でも「米山記念奨学会の理事長という職責ほど、大きなやりがいを感じたものはない」と語り、あらゆる場で当事業の“感動”を伝え、国内外、特に海外学友会には可能な限り足を運ばれました。理事長在任中には中国・タイ・ネパール・モンゴルのほか、国内を含めると9つもの学友会が誕生し、当事業の発展のために多大なご尽力をいただきました。

4月23日には足利市民会館において、社葬として葬儀・告別式が行われるとのことです。

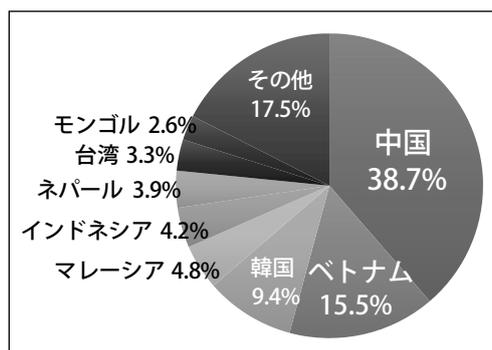
ここに謹んで哀悼の意を表し、氏のご冥福をお祈り申し上げます。

2019 学年度新規奨学生オリエンテーション開始

2019学年度の奨学生は昨年度より17人増の871人となりました。新規採用者641人、継続者230人です（4月10日現在）。国・地域別にみると、中国38.7%、ベトナム15.5%、韓国9.4%、マレーシア4.8%、インドネシア4.2%の順です。プログラム別では、学部・修士・博士課程奨学金が812人（学部：321人、修士：268人、博士：223人）、地区奨励奨学金17人、クラブ支援奨学金9人、海外学友会推薦奨学金4人、

今年度から正規プログラムとなった海外応募者対象奨学金は29人となっています。3月30日を皮切りに、今月下旬まで、各地区でオリエンテーションが開催

されます。オリエンテーションは、奨学生とカウンセラーが出会い、奨学生としての義務やロータリーについて理解してもらい、奨学金の申請書に署名をした後、正式に米山奨学生となります。どうぞ温かくお迎えください。



寄付金速報 — 2018-19 年度も残り3カ月 —

3月までの寄付金は、前年同期と比べて0.6%減（普通寄付金:0.07%減、特別寄付金:0.9%減）、約730万円の減少となりました。普通寄付金、特別寄付金ともに前年同期比から減少しているものの、過去5年間の平均寄付額からは上回っており、堅

調を維持しています。今年度も残り3カ月を切りました。今後は特別寄付金が主な寄付金収入となります。引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

Rotary
Zones 1 & 2 & 3



コーディネーター 2019年5月号

NEWS

発行：Zones 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

■「ロータリーの未来のビジョン」

国際ロータリーは、戦略計画委員会がロータリアンを対象に3年に一度調査をしています。最終は2017年に実施されています。

2017年調査は戦略計画の策定と、ロータリーの将来に関するビジョンについてロータリアンにアンケート調査しました。今回はローターアクト、学友、ロータリーの職員にも広げました。総計28,000人を超える参加人数でした。

結果、＜強み＞①クラブ例会を通じて友情と親睦を深めている。②長期的なメンバーシップ(会員制)を強く望んでいる。③ロータリーを通じて地元地域ならびに世界をより良くする機会が与えられていると感じている。④関心を示している分野のほとんどは、ロータリーの重点分野及びポリオ撲滅活動によって網羅されている。＜課題＞①若年層と女性会員とローターアクト、学友は若年層と女性会員の割合が高まることを望んでいる。②情報の透明性と説明責任は最優先事項であるがこの分野で後れを取っている。③クラブが戦略計画を立案すればするほど、会員の満足度が高まり、ロータリーの将来に対する楽観的な見解が増える。④かなりの割合のロータリアンが、変化のペースに苛立ちを感じている。⑤多くのロータリアンが、所属クラブがより多くの社会奉仕と国際奉仕のプロジェクトに参加することを望んでいる。⑥プロジェクトや活動に十分参加しないクラブは、参加意欲の低下や会員減につながる恐れがある。

このような結果にて、ビジョン声明「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」が出されました。

第2ゾーン ロータリーコーディネーター 田中 正規 (西尾RC)

■「ストーリーテリングの重要性」

昨年の3月に地域リーダー就任にあたってシカゴの研修で学び、今でも鮮明に覚えていることの一つに、「ロータリーをストーリーで語ろう」があった。ストーリーで語ることで相手に理解されやすく、影響を与えられると言う。因みにインターネットで「ストーリーテリング」を検索すると様々な有益な情報が得られた。少し長いが引用する。「ストーリーテリングとは伝えたい思いやコンセプトを、それを想起させる印象的な体験談やエピソードなどの物語を引用することによって、聞き手に強く印象付ける手法のことです。抽象的な単語や情報を羅列するよりも、相手の記憶に残りやすく、得られる理解や共感が深いことから、企業のリーダーが理念の浸透を図ったり、組織改革の求心力を高めたりする目的で活用するケースが増えている」とあった。ビジネスの世界で「自分の考えや思いを伝える」ことが大切であり、会社の経営理念や商品の説明、またブランディングにおいてもストーリーで語ることは効果的とされる。

この時代、消費者の目は肥えてきて差別化が難しくなっており、数字や表だけの説明だけではなかなか共感が得られなくなってきているようだ。先ごろ科学者の学会発表においてもストーリー仕立てにすることの必要性を説く「なぜ科学はストーリーを必要としているのか」という大部な本(ランディ・オルソン著、慶應義塾大学出版会)に出会った。副題に「ハリウッドに学んだ伝える技術」とあった。著者は言う「物語は、信じられないくらい強力だ。ビジネスの現場でのツールとしてだけでなく、世界を理解する上でも、その力は計り知れない」と。

ストーリーテリングの特徴は、語り手が自分の言葉に直して語るところに特徴がある。同じ物語でも語り手によって味わいを持たせることができる。

ロータリーを外に向かって語る時4つのボイスを活用することが推奨されている。「賢明さ」「思いやり」「粘り強さ」「行動を促す力」の4つである。先日、自クラブの「オープン・ロータリー」で外部の人たち(入会を推薦者含む)を招き、このボイスを使ってロータリーと自クラブの歴史を語る機会があった。25分位の短い時間ではあったが私のスピーチとしてはこのボイスのお陰で珍しくまとまった話ができたと感じる。経験豊かなリーダーの世界的ネットワーク、6つの重点分野、青少年交換、インターアクト、ローターアクト、米山記念奨学会、ポリオ撲滅などのロータリーの活動をボイスの視点で整理しながら情熱をもって語ったつもりだ。

ガバナー、ガバナー補佐、地区委員長はロータリー(2つの標語・ロータリーの目的・4つのテスト・戦略計画・中核的価値観・ポリオ撲滅など)を語る機会が多い。その際にボイスを活用しストーリーで語ることを強く推奨する次第である。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春 (野々市RC)

ロータリー探訪



変化するロータリーとクラブ

第2510地区職業奉仕委員長

玉井 清治

(函館亀田RC)

4月14日～18日イリノイ州シカゴにて規定審議会が開催され、116件の立法案と1件の見解表明案、合計117件審議されました。そのなかで立法案提出件数がRI理事会27件、日本25件、インド16件、アメリカ15件、フランス・イギリス・オーストラリア各5件、その他11件あり、相変わらず日本の熱心さがうかがえました。また、RI理事会からの提案27件のうち採択された22件は、財務関係(お金の問題)、ロータリー財団との関わり等、寄付金についてRIはどのように考えているかが大きく感じ取れました。

直接関係あるクラブ運営では出席補填「メイクアップ」が例会前後14日間以内だったものが1年度以内に変更、職業分類に属する会員数の制限を廃止することなどが目に付きました。私たちは変化するロータリーを正確に受け止め、前進しなければならないと思います。前回2016年の規定審議会決定事項で「柔軟性による例外規定の導入」では日本全国のロータリアンが大きくざわめきましたが、今回の結果でも真剣にクラブ例会の重要性を感じているロータリアンからは色々な意見が出てくるような気がします。

ロータリークラブには大幅な自治権が認められています。これはロータリーの基本理念「決議23-34」で完全に明文化されており、(手続要覧のいちばん最初に掲載されています)クラブ管理、奉仕活動の実践、例会の運営方法など、ほとんどのことはクラブ細則の範疇にありますから、クラブの実態に合わせて、常に細則を見直し、思い切ってその内容を改正することも肝要でしょう。

いつも関西地区ロータリーの先輩と一杯飲みますと、阪神淡路大震災の翌日、例会に集った多くのロータリアンが倒壊した例会場の瓦礫を前にお互いの無事を喜び合ったという話を何度も聞き、その度にロータリーの例会を大切に思う気持ちが心から伝わってまいります。私たちはロータリークラブへ入会する時、例会出席の大切さを教えられ、出席することを約束して入会しています。しかし年と共にそ

の気持ちが疎かになりがちですが、多忙な自分が少しの時間をさいて、自分に課した約束を守ることの大切さを忘れないようにしなければならないと思います。また、入会時に先輩から口酸っぱく教えられたことは、1. 緊急時を除きホームクラブ、メイクアップを問わず例会時間100%出席の習慣をつけること。2. 卓話を聞くことを楽しみ、メモをとる習慣をつけること。3. 例会欠席が前もって決まっている場合には事前に余裕を持ってメイクアップすることでした。これは単なる規則を遵守することを強要させるのではなく、社会人として、経営者として大切なことだと思って約20年ロータリアンを続けてきました。

ホームクラブ以外のロータリークラブへメイクアップすることは、各ロータリークラブの例会のあり方など、色々な点で参考になるものです。私たちは訪問するクラブで学ぶと共に、その雰囲気大切にしたいものです。しかし、はたしてそれが守られているのでしょうか。先日、ロータリー以外の友人から聞いた話です。その方がクラブで卓話依頼されて「私は、食事を終えて演台に立ち話を始めようとした時、会場の後方に座っていた多くの会員が一斉に退席しました。会釈もせず当然のように会場を去る有様を見て、私の卓話内容が気に入らないのかとの思いで悲しい気持ちになりました。30分の話を終えた帰り道、ロータリーとは紳士の集いとかねがね聞いていましたが、クラブの雰囲気、卓話者への心配りというような人間として大切なものを越えるほど時間に余裕の無い人々なのかと感じたのです。」と。このことは、私も他の多くの人も感じていることではないのでしょうか。この状態を徐々に改良していくには勇気をもって行動することでしょう。

一業一会員制の考え、1年交代、週1回の出会い、ロータリー情報、そして会員一人一人の行動がロータリーを強くしていくことでしょう。

地区カレンダー (5月・6月)

5月 青少年奉仕月間	
1 (水)	天皇即位の日
2 (木)	祝日
3 (金)	憲法記念日
4 (土)	みどりの日
5 (日)	こどもの日
6 (月)	こどもの日振替
7 (火)	
8 (水)	
9 (木)	
10 (金)	
11 (土)	長沼国際フェスティバル
12 (日)	第1グループIM (留萌)
13 (月)	
14 (火)	
15 (水)	
16 (木)	
17 (金)	
18 (土)	RYLAセミナー (様似) ~19日 (日)
19 (日)	
20 (月)	
21 (火)	
22 (水)	
23 (木)	
24 (金)	
25 (土)	第7グループIM (恵庭RC)
26 (日)	羽幌RC創立40周年記念式典
27 (月)	
28 (火)	
29 (水)	
30 (木)	
31 (金)	

6月 ローター親睦活動月間	
1 (土)	国際大会 (ドイツ:ハンブルグ) ~5日
2 (日)	
3 (月)	
4 (火)	
5 (水)	
6 (木)	
7 (金)	
8 (土)	
9 (日)	
10 (月)	
11 (火)	
12 (水)	
13 (木)	
14 (金)	
15 (土)	
16 (日)	地区委員長・ガバナー補佐現新引継ぎ会議 インターアクト年次大会 (室蘭)
17 (月)	
18 (火)	
19 (水)	
20 (木)	
21 (金)	
22 (土)	
23 (日)	
24 (月)	
25 (火)	
26 (水)	
27 (木)	
28 (金)	
29 (土)	
30 (日)	ローターアクト第46回地区大会 (赤平) 2018-2019年度終了

2019年5月のロータリーレート

1ドル 112円

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2018.7.1	2019.3.31	増減	内女性	
1	深 川	3	33	32	-1	1	82.48
	羽 幌	3	46	45	-1	2	78.50
	妹背牛	3	7	7	0	0	80.95
	留 萌	3	33	35	2	3	66.35
	小 計		119	119	0	6	77.07
2	赤 平	4	27	26	-1	2	75.26
	芦 別	3	31	30	-1	2	70.93
	砂 川	4	40	41	1	1	96.70
	滝 川	3	93	96	3	4	72.00
	小 計		191	193	2	9	78.72
3	美 唄	3	26	27	1	0	92.36
	江 別	2	32	33	1	1	78.13
	江 別 西	4	30	32	2	4	85.90
	岩 見 沢	3	74	75	1	0	90.01
	岩見沢東	3	17	17	0	2	77.45
	栗 沢	3	19	18	-1	1	95.80
	栗 山	3	25	27	2	5	70.51
	当 別	3	27	29	2	0	80.68
	小 計		250	258	8	13	83.86
4	札 幌	3	121	124	3	2	98.96
	札幌はまなす	3	16	18	2	2	78.00
	札 幌 北	3	40	44	4	4	81.49
	札幌モーニング	3	34	33	-1	0	87.70
	札 幌 西	3	50	49	-1	9	81.32
	札幌西北	3	34	32	-2	3	80.60
	札幌手稲	5	37	39	2	4	80.76
	小 計		332	339	7	24	84.12
5	札 幌 東	3	125	121	-4	0	99.70
	札幌清田	3	13	13	0	4	100.00
	札幌幌南	4	66	55	-11	3	97.64
	札幌真駒内	3	23	24	1	6	100.00
	札 幌 南	4	88	92	4	2	96.51
	札幌大通公園	2	14	14	0	4	46.42
	札幌ライラック	2		20		6	77.50
	新 札 幌	3	25	27	2	5	76.39
小 計		354	366	12	30	86.77	
6	岩 内	3	20	20	0	1	95.00
	倶 知 安	3	36	34	-2	3	70.80
	小 樽	4	71	74	3	5	84.35
	小 樽 南	4	65	65	0	4	79.20
	小樽銭函	3	22	24	2	1	81.00
	蘭 越	4	9	9	0	0	100.00
	余 市	3	43	42	-1	5	88.00
	小 計		266	268	2	19	85.48

会
員
増
減
数
・
3
月
出
席
率

クラブ数	70クラブ
期首会員数	2,544人
当月末会員数(女性)	2,596人(171人)
増加会員数	52人
当月平均出席率	81.49%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2018.7.1	2019.3.31	増減	内女性	
7	千 歳	2	69	75	6	9	80.50
	千歳セントラル	3	39	42	3	8	65.08
	恵 庭	3	49	53	4	3	76.58
	北 広 島	3	16	16	0	0	83.33
	長 沼	3	17	16	-1	3	68.75
	由 仁	2	7	8	1	1	95.75
	小 計		197	210	13	24	78.33
8	え り も	2	17	21	4	1	100.00
	三 石	3	13	12	-1	0	70.00
	様 似	2	17	17	0	1	72.06
	静 内	3	72	69	-3	4	86.00
	浦 河	3	26	28	2	3	89.29
	小 計		145	147	2	9	83.47
	9	伊 達	3	64	64	0	1
室 蘭		3	32	31	-1	2	75.49
室 蘭 東		4	34	38	4	3	57.75
室 蘭 北		4	46	48	2	2	70.41
登 別		4	25	25	0	1	76.00
洞 爺 湖		2	9	9	0	0	100.00
小 計			210	215	5	9	75.53
10	函 館	3	76	78	2	1	73.93
	函館亀田	3	43	42	-1	4	72.36
	森	3	35	34	-1	0	67.70
	七 飯	4	12	12	0	0	70.83
	長 万 部	2	10	11	1	0	72.70
	函館セントラル	4	23	23	0	2	79.99
	小 計		199	200	1	7	72.92
11	江 差	2	10	10	0	1	75.00
	函館五稜郭	5	54	55	1	0	88.00
	函 館 東	4	45	42	-3	8	65.24
	函 館 北	3	16	19	3	0	89.18
	北 斗	3	12	12	0	0	66.70
	小 計		137	138	1	9	76.82
12	白 老	3	30	30	0	3	78.60
	苦小牧	4	59	59	0	3	76.00
	苦小牧東	3	27	26	-1	4	87.18
	苦小牧北	4	28	28	0	2	95.34
	小 計		144	143	-1	12	89.64
合 計		2,544	2,596	52	171	81.07	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数11名(内女性会員0名)を含む

ガバナー各位

ロータリー文庫運営委員会

委員長 真下和男

拝啓

陽春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は、ロータリー文庫の運営にあたりまして格別のご高配を賜り、誠に有難うございます。

本年度も残り僅かとなりましたが、この一年、「文庫通信」のガバナー月信へのご掲載には一方ならぬお世話になり、おかげさまで以前にも増して、全国会員の皆様からご利用を頂き、ロータリー活動のお役に立たせて頂くことが出来ますこと誠に有難く、ロータリー文庫運営委員会として厚く御礼申し上げます。

なお、次号(377号)より「文庫通信」の原稿は来年度のご掲載として、ガバナーエレクト宛にてお送りさせて頂くことになります。

今後ともロータリー発展のため文庫への変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

最後に、御地区の一層のご発展と貴ガバナー年度のご成功、さらに今後のご多幸を心からお祈り申し上げ、御礼のご挨拶と致します。

敬具

文庫通信 (376号)



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

2019年規定審議会で多くの重要法案が採決され、否が応でもこれからのロータリークラブ/国際ロータリーの管理・運営に影響を及ぼします。これからのロータリーを考える上で、ロータリーの歴史を知ることはその第一歩です。特に、新しく入会された会員のために文献を選びました。初期の頃と今とは、ロータリーの本質の捉え方も異なってきております。歴史的記述には間違いや相反するものも含まれています。冷徹な批判的な眼をもって、過去を正しく分析し、未来のロータリーを考えてください。

新会員のためのロータリーの歴史文献

〔下記申込先：ロータリー文庫〕

- ◎「ロータリーの歴史年表(2018年12月改訂版)」 諏訪昭登 [2018] 10p
- ◎「ロータリー語ときあかし辞典」 デイビッドC.フォワード著:菅野多利雄日本語監修 R. I. [2003] 331p
- ◎「ロータリー日本五十年史」 ロータリー日本50年史編集委員会樹 [1971] 430p
- ◎「ロータリー進化論」 前原勝樹 [1985] 19p
- ◎「ロータリー歴史探訪」 田中毅 [2004] 131p
- ◎「新会員のためのロータリーの歴史」 佐藤信 [1987] 48p

上記 ※印はデジタル化されている資料です。

* 資料の検索は文庫ホームページから <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

ロータリー文庫通信

ロータリー文庫の資料から、毎月資料を厳選して発信しています。詳細はこちらへ

ロータリー文庫検索

2万点余りある資料をインターネットで検索することが出来ます。詳細はこちらへ

ロータリー文庫について

・文庫について
・HP利用方法
・運営委員会から



トップページには三つの窓があります。上記矢印「HP利用方法」をクリックしていただきますと、「ホームページの利用方法」というPDFが表示されます。

ここには1999年2月ホームページ開設以来、データベース化された全ての資料の検索方法が書かれています。尚、過去の文庫通信一覧については、左窓の「詳細はこちらへ」をクリックしてください。

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日



表紙写真

札幌市南区 滝野すずらん丘陵公園のチューリップ畑

撮影者：野口観光ホテルプロフェッショナル学院・

北海道文教大学外国語学部国際言語学科 講師 今野哲郎

Rotary
District2510

